

自己調整を促す！教職協働による留年防止研修

土屋 麻衣子(福岡工業大学 教養力育成センター 教授)

杉田 郁代(高知大学 学び創造センター 准教授)

講師略歴

【土屋麻衣子】教育学博士。専門は自己調整学習、形成的フィードバック、動機づけ研究。福岡工業大学において、英語科目と自己調整学習促進を目的とした必修科目を担当。また、FD活動や全学的な主体性育成教育に従事。近年は自己調整およびフィードバック手法について、他大学、高校などにおいても研修を実施。

【杉田郁代】専門は高等教育開発及び学生支援。教育関連の財団法人研究員として、不登校児童生徒学校支援事業、通信制高校教員を対象とした研修プログラムの開発に従事。2009年に環太平洋大学次世代教育学部講師、同准教授、比治山大学現代文化学部准教授などを経て、2018年より現職。

プログラム概要

大学教育の質保証が求められる中、多様化する学生への学生支援の重要性は増してきています。学習意欲の低下や成績不振の背景には、「自信のなさ」「義務感」「勉強方法がわからない」といった課題があり、教職員には学生の主体的な学びを引き出す関わり方が求められています。こうした支援は、教員だけでなく職員も参画することで、組織的・効果的に進めることができます。

このプログラムでは、学生の意欲を引き出す理論と実践手法として「自己調整学習」と「形成的フィードバック」を取り上げます。大切にしたいのは、「何をすべきか」を学生自身に考え、決めてもらう姿勢です。教職員は「注意する、教える」のではなく「支援し、伴走する」立場で関わります。研修では、ワークシートを用いたグループワークを通じて、参加者自身が学生役となり、目標設定から行動計画の作成までを体験します。

本手法を取り入れた福岡工業大学では、退学率3%未満を2025年度まで4年連続で達成するなどの成果も上がっています。本研修は、参加者や講師との意見交換を通じて、学生の立場で考える機会として企画しました。

準備物・事前課題

【事前課題】次の資料を一読してください。

1. 「自己調整学習促進を軸とする学修支援—単位取得に困難を抱える学生を対象として—」『工学教育』73 巻 5 号 p. 5_134-5_139 https://doi.org/10.4307/jsee.73.5_134
2. 後期開始前の留年防止研修で"意欲がわく目標設定"を支援—福岡工業大学|Between 情報サイト <https://between.shinken-ad.co.jp/detail/2025/01/fit.html>

主な受講対象者

学生支援に関わる教職員

到達目標

1. 自己調整学習および形成的フィードバックの理論と意義について説明できる。
2. 「支援し、伴走する」教職員の関わり方について説明できる。
3. 所属大学の状況をふまえ、自己調整学習を活かした企画を提案できる。